

交通事故による被害の実態とその軽減対策に関する調査研究（Ⅱ）（平成3年度）

交通事故による死者数は増加の傾向を続けていることから、昨年度に引き続き、交通死亡事故及び重傷事故を主な対象として、運転者、車両、道路、交通安全施設、救急、医療の総合的な観点から交通事故実態の事例調査を実施し、事故防止及び被害軽減に焦点を当てた分析及び検討を行うとともに、総合事故調査・分析のあり方などについても検討を進めた。

- ① 交通死亡・重傷事故 299 件を対象に事例調査を実施した。対象事故のクロス集計により、人身損傷程度、事故類型、時間帯、道路形状、年齢層、車種、当事者相関、危険認知速度、シートベルト着用有無、人身損傷部位と加害部位、現場到着までの所要時間、救急活動での交通状況、応急措置、救急活動の障害要因等の特徴が示された。
- ② 夜間事故を起した若者へのアンケート調査結果から、運転目的は「遊び」が多く、スピードを楽しむ傾向等がみられた。優先通行妨害と指定場所不停止との比較では、前者は通り慣れた道での事故が多く、状況判断の甘さや衝動抑止性の低さが表れているのに対し、後者は事故原因を相手に帰する者が多く、安全意識等に問題がある場合が多いと思われる。
- ③ 高齢者の原付事故 9 件中、進路変更時衝突が 3 件、単独事故と追突事故が各 2 件、出会頭衝突と右直事故が各 1 件あり、進路変更時衝突は右方向の安全不確認であった。
- ④ 道路交通環境と事故類型について、道路種別、道路形状別、道路線形別の特徴が示されるとともに、電柱、分離帯、防護策等への工作物衝突及び運転者不在駐車車両衝突について、関連あると思われる道路交通環境要因が示された。
- ⑤ 四輪車事故について、側面衝突、単独、対二輪事故の実態を分析した。二輪車事故について、カーブ、出会頭、右折、直線での単独衝突、衝突形態と障害等を分析した。
- ⑥ 乗員保護装置については、シートベルトによる障害低減効果がみられた。ヘルメットについては、完全着用の必要性と効果が示されるとともに、ヘルメット損傷の再現実験と負傷診断データ等の追跡調査が近い将来に必要であるとされた。
- ⑦ 典型的な事故の発生経過・結果等の総合的な詳細分析により（表）、全体的メカニズムが解明され、事故防止と被害軽減に関する問題を総合的に検討することができる。また、事故再現は力学的な検討手段として有効である。このような個別事例の詳細分析による基礎資料の蓄積により、実際的かつ有効な対策立案に寄与すると考えられる。
- ⑧ 事故調査の継続的实施には、人的にも物的にも所要の調査体制の整備が必要である。総合的分析には、各分野の専門家が専念できる体制整備が急務である。体制整備と検討の積重ねにより、総合的な交通事故調査分析体制が確立されていくと考えられる。

表 事故メカニズムの推定例

